

廿日市市景況調査報告

(2020年7～9月)

～「業況DIは、持ち直しの動きあるも、力強さ欠く。」

先行きは慎重な見方続くも、回復に期待感」～

1. 全体の概要

業種別景況概要	全国(9月)		廿日市 7～9 月と先行き見通し									
	全産業		全産業		製造業		建設業		卸小売業		飲食・サービス業	
	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し
収入・売上	▲ 55.8	▲ 42.7	▲ 54.5	▲ 45.9	▲ 62.5	▲ 62.5	100.0	50.0	▲ 75.0	▲ 25.0	▲ 75.0	▲ 50.0
採算	▲ 51.4	▲ 43.2	▲ 45.5	▲ 36.4	▲ 37.5	▲ 37.5	100.0	0.0	▲ 75.0	0.0	▲ 75.0	▲ 62.5
仕入価格	▲ 20.5	▲ 19.1	▲ 4.5	▲ 9.1	12.5	▲ 12.5	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	0.0	0.0
雇用人員	0.9	3.9	4.5	18.2	0.0	12.5	▲ 50.0	0.0	50.0	50.0	0.0	12.5
業況	▲ 56.5	▲ 44.0	▲ 54.5	▲ 38.1	▲ 50.0	▲ 42.9	0.0	0.0	▲ 50.0	0.0	▲ 75.0	▲ 62.5

※ 全国調査は【日本商工会議所LOBO調査】をご参照ください (対象 72 社 回答 22 社)

全産業合計の業況DIは▲56.5(前月比+2.5ポイント)。新型コロナウイルスの影響により、巣ごもり消費が拡大する中、ネット通販やデリバリーを活用する消費者の増加も追い風となり、飲食料品の売れ行きが堅調だった。また、自動車関連で、経済活動をいち早く再開した中国向けの生産が持ち直しつつあるほか、建設業では台風などの災害復旧を含む公共工事の下支えが続く。一方、消費者のマインド低下や観光需要の低迷から、飲食・宿泊をはじめ関連産業の経営は依然厳しく、コロナ対策のコスト増を指摘する声も聞かれる。中小企業の景況感は持ち直しに向けた動きがみられるものの、力強さに欠く状況が続いている。

【廿日市市の景況】 ～業況DIは下げ止まるが、先行きへの不安は続く～

全産業合計の業況DIは▲54.5。前回調査(4～6月)からプラス9.1ポイント持ち直した。

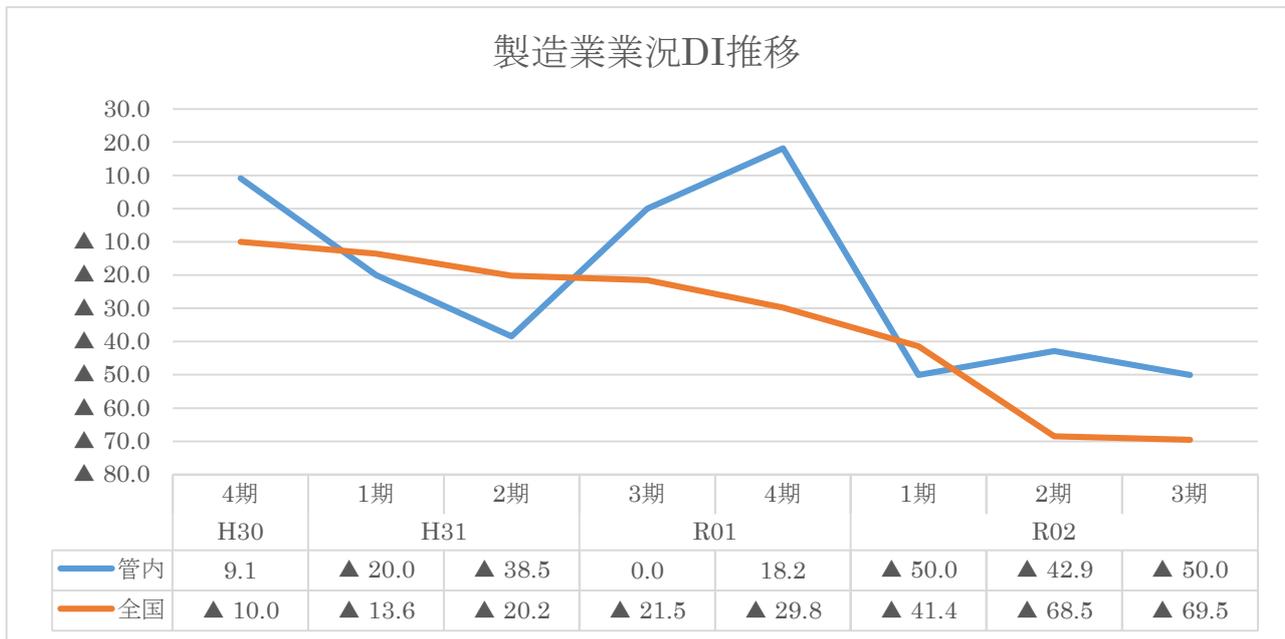
産業別では、卸小売業と飲食・サービス業は、前回よりマイナス幅が回復しているが、製造業は、マイナスが広がっている(▲42.9→▲50.0)。コロナ禍での受注や着工の延期や、消費の変化が製造業へ影響を与えた様子。飲食・サービス業は前回よりマイナス幅が若干回復しているとはいえ、前年比▲75.0と厳しい状況が続いている。

向こう3か月の全産業合計の業況DIは、▲38.1と更なる持ち直しへの期待が感じられる。

また、雇用人員は全業種合計がプラス4.5と不足から過剰に転じている。向こう3か月(10～12月)の見通しも、プラス18.2と過剰の見通しだ。ただし、当面の問題の第2位が従業員、人材の確保難となっており、業種、企業単位で不足と過剰のバランスが異なっていることや、景気不振による雇用維持に苦慮していることがうかがえる。

2. 業種別推移

【製造業】



第 1 表 業種別生産指数（付加価値額ウェイト）

年・期・月	鉱工業	製造工業	鉄鋼業	非鉄金属工業	金属製品工業	一般機械工業(総合)	はん用機械工業	生産用機械工業	業務用機械工業	電気機械工業(総合)	電気・情報通信機械工業	電子部品・デバイス工業	輸送機械工業	窯業・土石製品工業
7月	90.2	90.2	66.7	76.4	67.9	101.9	64.9	116.2	87.7	115.4	80.2	123.7	85.1	77.9
8月	91.7	91.7	68.8	75.4	75.6	100.9	138.9	83.2	83.3	145.4	75.4	159.7	85.6	81.5
9月	89.1	89.2	68.8	79.1	69.9	90.6	124.3	89.3	54.1	126.6	68.7	136.6	82.9	76.7

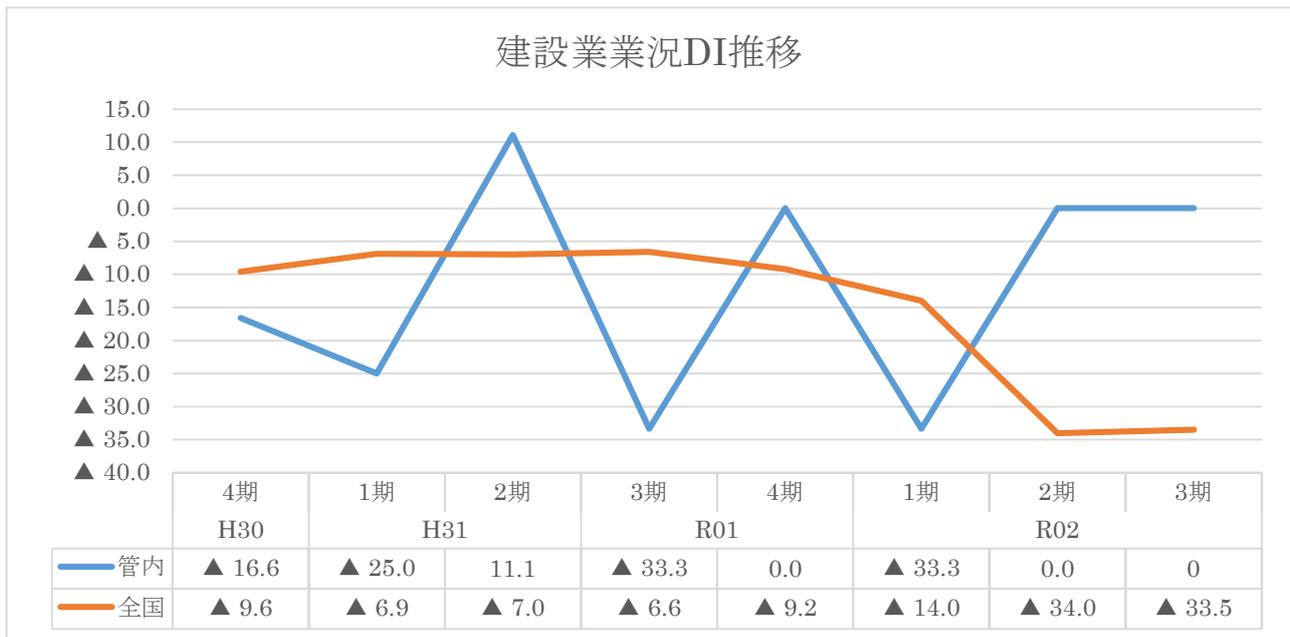
化学工業	プラスチック製品工業	パルプ・紙・紙加工工業	繊維工業	食料品・たばこ工業	木材・木製品工業	ゴム製品工業	その他工業	家具工業	その他製品工業	鉱業	公益事業	産業総合	機械工業	自動車部門	造船部門
91.3	116.1	77.7	84.4	71.6	17.5	76.2	83.1	94.1	81.8	35.0	72.6	89.7	97.5	95.1	52.3
88.8	101.2	63.7	74.3	71.6	17.9	75.6	75.0	68.4	77.4	49.2	75.8	91.4	101.7	88.1	65.2
84.2	111.8	70.1	87.4	78.9	15.7	82.8	72.5	92.7	64.2	47.6	110.3	89.2	95.7	88.1	62.1

《広島県鉱工業活動動向 業種別生産指数（季節調整済）》※広島県ホームページより

管内及び全国の業況DIは一旦の下げ止まりはみられるものの、依然として前期と同様大幅なマイナス値となっており、新型コロナウイルスの影響が続いていることが見受けられる。

また先行指数である、業種別生産指数は一部の業種を除いて、概ね横ばいとなっているが、公益事業が大きく伸びていることが伺える。自動車関連も依然として横ばいである。

【建設業】



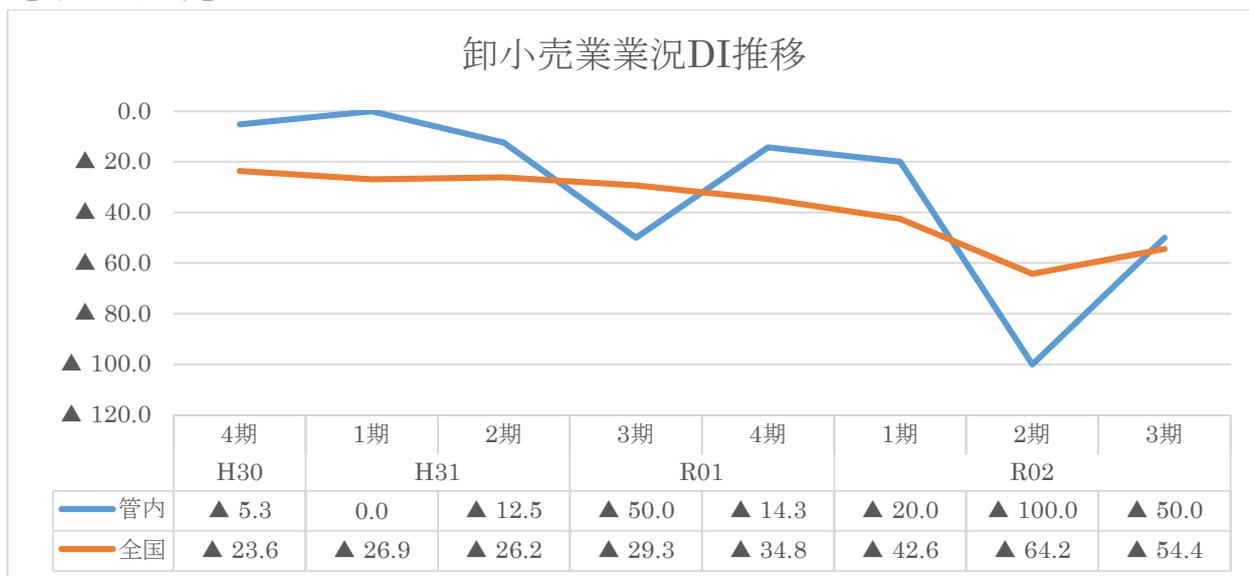
広島県 新設住宅着工戸数 (速報値) (令和2年9月分)														広島県土木建築局建築課	
														作成日 令和2年10月30日	
	合計	持家	貸家	給与	分譲	戸建	長屋建	共同建	木造	SRC	R C	鉄骨造	C B	その他	
県計	1,532	440	467	1	624	696	197	639	837	0	430	257	8	0	
廿日市市	54	22	20	0	12	34	8	12	39	0	0	15	0	0	

広島県 新設住宅着工戸数対前年比較表 (令和2年9月分)										
(単位：戸, %)										
	合計	対前年比	持家	対前年比	貸家	対前年比	給与	対前年比	分譲	対前年比
県計	1,532	18.7	440	-9.1	467	-2.9	1	-50.0	624	92.6
廿日市市	54	-30.8	22	-4.3	20	-41.2	0	-	12	-42.9

建設業の業況DIは、全国及び管内ともに横ばいの状況であるが、全国値の▲33.5と比較して管内は0と全国の建設業者ほど景況は悪化していないことが見受けられる。

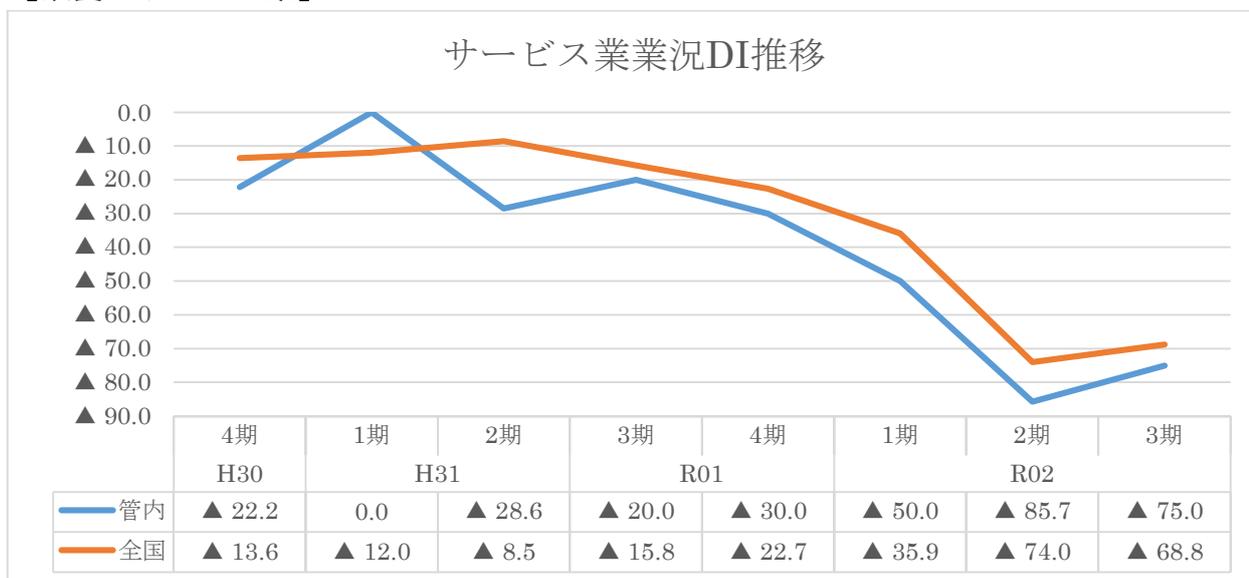
また、先行指数である新設住宅着工件数をみると、県全体での対前年比較は18.7%の増加であるのに対して、管内では▲30.8%と減少しているため、今後厳しくなることが予想される。

【卸・小売業】



管内の業況は前期の▲100.0から▲50.0へ、全国値は前期の▲64.2から▲54.4と若干の回復傾向がみられるものの、新型コロナウイルス感染症による今後の影響は依然として不透明な状況にある。

【飲食・サービス業】



管内の業況であるが、前期▲85.7から▲75.0、全国値も▲74.0から▲68.8と若干の回復を見せているものの、卸小売業と同様新型コロナウイルスの影響は依然として不透明である。

3. 今月のトピック

(1) 令和2年9月の景気ウォッチャー調査より

(1) 全国													
合計（家計動向関連＋企業動向関連＋雇用関連）													
	回答者数（人）						回答者構成比（％）						D I
	合計	良くなって いる	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪くなって いる	合計	良くなって いる	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪くなって いる	
2020年1月	1,837	18	202	854	600	163	100.0	1.0	11.0	46.5	32.7	8.9	40.6
2020年2月	1,827	16	111	457	693	550	100.0	0.9	6.1	25.0	37.9	30.1	27.4
2020年3月	1,812	20	65	208	458	1,061	100.0	1.1	3.6	11.5	25.3	58.6	15.9
2020年4月	1,790	28	38	92	270	1,362	100.0	1.6	2.1	5.1	15.1	76.1	9.5
2020年5月	1,823	24	98	203	325	1,173	100.0	1.3	5.4	11.1	17.8	64.3	15.4
2020年6月	1,834	54	417	462	399	502	100.0	2.9	22.7	25.2	21.8	27.4	38.0
2020年7月	1,845	53	415	582	430	365	100.0	2.9	22.5	31.5	23.3	19.8	41.3
2020年8月	1,834	43	393	717	392	289	100.0	2.3	21.4	39.1	21.4	15.8	43.3
2020年9月	1,835	38	526	742	357	172	100.0	2.1	28.7	40.4	19.5	9.4	48.7

家計動向関連（小売関連＋飲食関連＋サービス関連＋住宅関連）													
	回答者数（人）						回答者構成比（％）						D I
	合計	良くなって いる	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪くなって いる	合計	良くなって いる	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪くなって いる	
2020年1月	1,237	13	151	546	407	120	100.0	1.1	12.2	44.1	32.9	9.7	40.5
2020年2月	1,235	10	87	274	434	430	100.0	0.8	7.0	22.2	35.1	34.8	26.0
2020年3月	1,216	16	50	120	262	768	100.0	1.3	4.1	9.9	21.5	63.2	14.7
2020年4月	1,217	26	31	53	159	948	100.0	2.1	2.5	4.4	13.1	77.9	9.5
2020年5月	1,235	22	88	137	192	796	100.0	1.8	7.1	11.1	15.5	64.5	16.6
2020年6月	1,242	48	349	327	215	303	100.0	3.9	28.1	26.3	17.3	24.4	42.4
2020年7月	1,246	43	317	394	268	224	100.0	3.5	25.4	31.6	21.5	18.0	43.7
2020年8月	1,237	37	291	468	248	193	100.0	3.0	23.5	37.8	20.0	15.6	44.6
2020年9月	1,246	25	386	482	238	115	100.0	2.0	31.0	38.7	19.1	9.2	49.4

(11) 中国													
合計（家計動向関連＋企業動向関連＋雇用関連）													
	回答者数（人）						回答者構成比（％）						D I
	合計	良い	やや 良い	どちらとも 言えない	やや 悪い	悪い	合計	良い	やや 良い	どちらとも 言えない	やや 悪い	悪い	
2020年1月	165	1	19	59	64	22	100.0	0.6	11.5	35.8	38.8	13.3	36.8
2020年2月	163	3	15	46	64	35	100.0	1.8	9.2	28.2	39.3	21.5	32.7
2020年3月	161	3	9	20	47	82	100.0	1.9	5.6	12.4	29.2	50.9	19.6
2020年4月	158	3	7	8	26	114	100.0	1.9	4.4	5.1	16.5	72.2	11.9
2020年5月	164	3	10	3	42	106	100.0	1.8	6.1	1.8	25.6	64.6	13.7
2020年6月	167	8	12	25	52	70	100.0	4.8	7.2	15.0	31.1	41.9	25.4
2020年7月	170	5	11	38	70	46	100.0	2.9	6.5	22.4	41.2	27.1	29.3
2020年8月	167	7	7	39	62	52	100.0	4.2	4.2	23.4	37.1	31.1	28.3
2020年9月	169	6	11	65	44	43	100.0	3.6	6.5	38.5	26.0	25.4	34.2

家計動向関連（小売関連＋飲食関連＋サービス関連＋住宅関連）													
	回答者数（人）						回答者構成比（％）						D I
	合計	良い	やや 良い	どちらとも 言えない	やや 悪い	悪い	合計	良い	やや 良い	どちらとも 言えない	やや 悪い	悪い	
2020年1月	115	0	14	39	44	18	100.0	0.0	12.2	33.9	38.3	15.7	35.7
2020年2月	114	1	12	27	45	29	100.0	0.9	10.5	23.7	39.5	25.4	30.5
2020年3月	112	2	8	12	27	63	100.0	1.8	7.1	10.7	24.1	56.3	18.5
2020年4月	114	2	5	5	18	84	100.0	1.8	4.4	4.4	15.8	73.7	11.2
2020年5月	115	1	9	3	24	78	100.0	0.9	7.8	2.6	20.9	67.8	13.3
2020年6月	116	5	11	23	31	46	100.0	4.3	9.5	19.8	26.7	39.7	28.0
2020年7月	119	2	10	31	46	30	100.0	1.7	8.4	26.1	38.7	25.2	30.7
2020年8月	116	4	7	29	38	38	100.0	3.4	6.0	25.0	32.8	32.8	28.7
2020年9月	118	3	9	43	32	31	100.0	2.5	7.6	36.4	27.1	26.3	33.3

	分野	判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連	<input type="checkbox"/>	・Go To Travelキャンペーンで、少し観光客は戻ってきているが、ツアーバスの予約は急なキャンセルがあるなど大変不安定であり、依然として、厳しい状況である（一般小売店〔茶〕）。
		<input type="radio"/>	・6月の頃に比べると来客数が微増しており、4連休は県外の客も多く来店している（一般レストラン）。
		<input checked="" type="checkbox"/>	・新型コロナウイルスの影響で引き続き来客数が少なく、特に主要な客層であるシニア層の来客数の減少が顕著である。特に今月は前年の消費税の引上げ前の駆け込み需要の反動で来客数は大幅な前年割れとなっている（百貨店）。
	企業 動向 関連	<input type="checkbox"/>	・素材、電子産業の製品出荷量が低位安定している（非鉄金属製造業）。
		<input type="radio"/>	・新型コロナウイルス発生前の状態には戻っていないが、製造量は徐々に上向いている（食料品製造業）。
		<input checked="" type="checkbox"/>	・総じて取引先の売上は戻ってきているが、新型コロナウイルス発生以前の水準までは戻っていない。新型コロナウイルス対策関連の経費等が増加しており、収益面、資金繰り面では厳しい状態が続いている（金融業）。
雇用 関連	<input type="checkbox"/>	・年末や来期へ向けた求人数が増加してきているが、全体の求人数は変わらない。景気の良しあしが業界によって異なっており、求人をやめる企業と増加する企業に分かれてきている（民間職業紹介機関）。	
	<input type="radio"/>	・大手製造業の工場のラインが一部動き出したため、景気はやや良くなっている（求人情報誌製作会社）。	
その他の特徴コメント			○：新型コロナウイルスの第2波がピークを過ぎた感じで、客の外出が増加し始めており、モデルハウスの来場者数も前年並みに戻りつつある（住宅販売会社）。 ▲：Go To Travelキャンペーン等のお陰で、県外からの客は多少増加したが、地元客の動きは悪い（その他専門店〔布地〕）。
先行き	家計 動向 関連	<input type="checkbox"/>	・新型コロナウイルスの影響で例年開催している移動展示会を開催できず、客の来店を待つだけなので、今後も期待できない（乗用車販売店）。
		<input type="radio"/>	・10月からGo To Travelキャンペーンの東京除外が解除され、地域共通クーポンの利用が可能となるので、宿泊客が増加する。また、地域独自の需要喚起策の併用も後押しとなり、飲食、物販店の経済効果も出てくる（都市型ホテル）。
	企業 動向 関連	<input type="checkbox"/>	・受注量や販売量の動きをみると、今後も景気は変わらない（一般機械器具製造業）。
		<input type="radio"/>	・Go To Travelキャンペーン等の効果も期待され、新型コロナウイルスの感染拡大がなければ、景気は上昇する（会計事務所）。
	雇用 関連	<input type="checkbox"/>	・土産菓子製造の会社から、新型コロナウイルスの影響で観光客の減少が続いており売上の回復が見込めず、助成金など支援がないと人員整理も考えざるを得ないとの話が出るなど、今後も厳しい状況が続く（職業安定所）。
その他の特徴コメント			○：イベント制限の緩和やGo To Travelキャンペーンの地域共通クーポンの開始などにより外出する人が増加するため、景気はやや良くなる（観光名所）。 □：Go To Travelキャンペーンを始めとする各種経済対策の効果を期待するが、現実的に景気が好循環に転換していくにはまだ時間が掛かる（旅行代理店）。